

令和6年度を振り返って ～輝き続ける子どもたち～

校長 根本愛子

校庭のハクモクレンが満開に咲き誇る本日、令和6年度修了式を迎えます。11日（火）には、第60回卒業式が挙行され、94名の卒業生が、義務教育の全課程を修了し、関城中学校を巣立っていきました。

パナソニックという会社の創業者である松下幸之助さんの著作の中で、「春、夏、秋、冬と同じことの繰り返しのようには思えるが、木々はひとまわり大きくなっている。毎日同じことの繰り返しのようには思えるが、昨日より今日の方が賢くなっている」という趣旨の内容を読んだことがあります。成長のスピードに違いはあれど、生徒たちのこの1年の成長は大きなものがあります。学習面、生活面、精神面、体力面、そして他者を理解し折り合いをつけながら人間関係を構築していく力・・・目に見える成長、目には見えない成長は、大人が思う以上ではないでしょうか。

特に3月から4月にかけて1ヶ月に大きく成長する生徒をたくさんみえました。1ヶ月で身体が急に大きくなるわけではありません。急に学力が伸びるわけでもありません。成長の要因はその人の心構えや気持ちの変化だと思います。意識の持ち方一つで行動が大きく変わります。この春休みには、1年間で積み上げてきた学び、仲間と築き上げた絆など、かけがえのない経験に自信と誇りをもち、4月から始まる新しい生活に向けた心構えを育ててほしいと願っています。

今年度、学校目標である「自ら学び 心豊かで たくましい生徒の育成」に向け、持続可能な創意ある教育活動として、将来を見据えた非認知能力を高められるよう、出前授業や体験活動などに力を入れてまいりました。教育は、「共育」であり「協育」であると言われるように、この1年間、保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様の皆様のご理解ご協力を賜りましたことに深甚なる感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

令和7年度も、どうぞよろしく願いいたします。

今月の関中ワード

○夢は大空に 足元は大地に!

夢を大きく描くことは素晴らしい そのために地に足をつけ、夢を叶えるための努力の大切さ、行動することの大切さを忘れないでほしい。